

## 捕獲技術の開発

## 1. エッグトラップを用いた実際の捕獲とアライグマの反応

## 1) 目的

アライグマの生息が確認されている場所でエッグトラップを設置し、その捕獲方法の検討および捕獲実施にあたる注意点などの検出を行う。

## 2) 調査地 (図 1)

和歌山県旧田辺市、上富田町および白浜町内にある稲成、堅田、岡、新庄、富田川の 5 箇所についてセンサーカメラでアライグマの出没を確認した。このうちアライグマの出現が確認された稲成、堅田、岡の 3 箇所についてエッグトラップを設置し捕獲を実施するとともにセンサーカメラを設置し、行動や出没状況を確認した。なお稲成は数 10m 離れた岩口池 (以下岩口池と呼称) とそこに流れ込む川の上流の堰堤脇 (以下堰堤と呼称) 2 地点で実施した。



図 1 調査地点

### 3) 実施期間

平成 18 年 8 月 23 日～11 月 27 日

### 4) 調査方法

#### (1) エッグトラップの設置場所と設置数

稲成では、1 回目は岩口池、堰堤とも各 4 基ずつ、2 回目は各 1 基ずつ設置した。堅田では、1m 程度の距離をあけ 2 基設置した。岡では距離を離して 4 基設置した。稲成岩口池は田辺市ふるさと自然公園内にありが、水量が多ければ水没するため散策路もなく、通常は人が近づくことはない。また稲成堰堤は川底までが藪に覆われているため、人が侵入することはない。堅田は池の中であり、稲成岩口池と同じく水量が多ければ水没するため通常は人が近づくことはない。岡はいずれも個人の柿畑内であり、所有者以外の人の進入はない。いずれの場所も調査中であること、ワナに手を触れないことを記載した注意書きを設置した。



写真 1 稲成岩口池での設置状況



写真 2 岩口堰堤の状況



写真 3 堅田での設置状況（捕獲個体含）



写真 4 岡での設置状況

## (2) エッグトラップの設置方法

基本的に地上高 40cm 程度の木杭を打ち、エッグトラップ固定用のワイヤーを杭の上端に固定した。ワイヤーの端は近くの木で固定した。ワイヤーの遊び部分が多い場合にはコンクリートブロックを用いて動かないようにした。ただし稲成堰堤での第 1 回目は、4 基のうち 2 基を立木の高さ 40cm 程度のところに固定し、残りの 2 基を地上高 1m 程度のところから地上高 40cm 程度のところまでワイヤーで吊した。

エッグトラップ内の餌は、殻つきピーナツ、カリントウ、レーズンパン、干しアンズをひとつ用い、トラップの周辺に撒き餌として、殻つきピーナツ、カリントウ、レーズンパン、干しアンズ、サバ缶、ピーナツバター、ドッグフードを適宜使用した。



写真1 杭を用いた設置



写真2 立木を用いた設置



写真3 ぶらさげ設置



写真4 餌のとりつけ

## 5) 結果

### (1) エッグトラップによる捕獲実績

エッグトラップの設置状況と捕獲個体数、センサーカメラによるアライグマとタヌキの撮影結果を表 1 に示し、捕獲個体の詳細を表 2 に示す。

表1 エッグトラップ設置状況と捕獲および撮影結果

調査地点	設置前撮影日数(回数)		エッグトラップ		アライグマ捕獲数	設置後撮影日数(回数)	
	アライグマ	タヌキ	設置期間; 設置台数	有効な設置台数日		アライグマ	タヌキ
稲成	2(8)	2(13)	8/23-9/7; 8基、 10/18-11/28; 1基	150	1	9(19)	26(252)
堅田	4(11)	6(12)	10/25-11/21; 2基	48	4	10(35)	5(24)
岡	8(12)	11(23)	10/24-11/27; 4基	136	0	6(14)	2(2)

(捕獲個体の撮影回数は1回とした)

表2 捕獲個体一覧

No	調査地点	捕獲日	性	体重 kg	成幼	備考
1	稲成	8/24	♀	2.20	幼	
2	堅田	10/31	♀	4.80	成	親子と思われる
3	堅田	11/6	♂	1.540	幼	
4	堅田	11/12	♂	1.798	幼	
5	堅田	11/21	不明	不明	成	逃走?



写真5 捕獲個体 No. 1  
(両手を1つのエッグトラップに入れている)



写真6 捕獲個体 No. 2 (両手を2つのエッグトラップそれぞれに入れている) とその子と思われる幼獣



写真7 捕獲個体 No. 3 とその兄弟と思われる幼獣



写真8 捕獲個体 No. 4 (No. 3 の兄弟と思われる)



写真7 捕獲個体 No. 5 (このあと個体は行方不明になる)



写真9 No. 5 のいなくなった跡

## (2) アライグマおよびタヌキの出現頻度

エッグトラップによって5頭のアライグマが捕獲された。出没が認められるが、捕獲されていないアライグマも確認された。エッグトラップの外には触れるが、中に手を入れない行動も観察された。

アライグマと同等あるいはそれ以上にタヌキの出没が認められるが、エッグトラップによって捕獲されることはなかった。また、タヌキ以外に哺乳類ではネコ（岡で32回）、イタチ（稲成岩口池で1回、岡で13回）、テン（岡で1回）、アナグマ（岡で1回）およびネズミの出現が自動撮影によって確認され、ヒヨドリやツグミなど鳥類も出現したが、いずれも捕獲されることはなかった。

箱ワナと比較して他種動物の誤捕獲の危険性は低いと考えられる。また、出現したアライグマをすべて捕獲するには至らず、今後さらなる検討が必要である。

## (3) アライグマ親子の行動

No. 1 は母獣と思われる個体と共に出現。No. 1 が捕獲されてから6分後まではそばにいた。No. 2 が捕獲されてから、子は1時間7分後までそばにいた。1時間20分後にフィルムがなくなったためその後は不明。No. 3 が捕獲されてから、兄弟と思われる幼獣はがなくなる6時間後まではそばにやってきた。

子は母親が捕獲されても警戒することがなく、連続して捕獲される可能性がある。

#### (4) エッグトラップによるトラブル

①No. 2 は自傷により手を痛めていた（写真 6 参照）。自動撮影結果から、捕獲後 30 分以内にそのような結果が発生していた。他の個体ではそのようなけがはなかった。

②アライグマが左右の前肢をそれぞれ別のエッグトラップに入れてしまう事例があった。

エッグトラップはある程度距離を離して設置するか、固定するワイヤーを短くする必要  
がある。

③エッグトラップを固定するワイヤーが切れ、捕獲されたアライグマがいなくなるという事例があった。アライグマがかみ切った可能性と、人によるワイヤーの切断の可能性が考えられた。

この事例が判明した 11 月 21 日よりエッグトラップによる捕獲を中断し、11 月 27 日まで箱ワナによる捕獲と翌年 1 月 1 日まで自動撮影による個体の出没確認を行ったが、エッグトラップをつけた個体の捕獲および撮影はなかった。



写真7 ワイヤー切断部

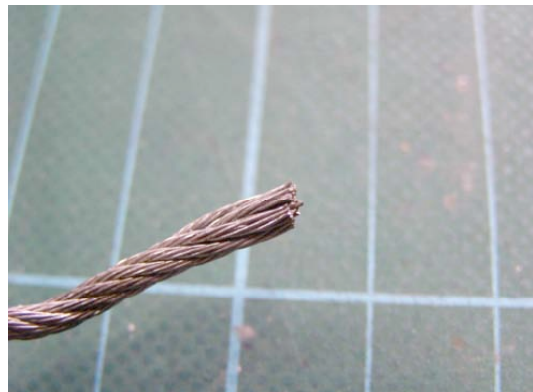


写真9 ワイヤー切断部拡大

## 2. エッグトラップに対する種別の反応

### 1) 目的

エッグトラップの安全性と有効性を判断するために、在来種およびアライグマのエッグトラップおよび箱ワナへの反応を観察する。

### 2) 対象地域

大阪府高槻市府営林

### 3) 方法

捕獲できないようにセットしたエッグトラップと箱ワナを設置し、自動撮影ビデオで周囲に出没する動物の行動を記録する。

### 4) 結果

調査期間中アライグマの出没はなく、タヌキが非常に頻繁に出没した。タヌキは箱ワナ内には進入したが、エッグトラップに触れることはなかった。